

普及活動の成果

課 題 名	次世代につなぐ「西海みかん」 の産地の振興	振 興 局 名	県北振興局
活 動 対 象	ながさき西海農協かんきつ部会 連絡協議会	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年 3月

【対象の概要】

1. 佐世保市南部で温州みかんを中心に部会員数312名、栽培面積406ha、生産量1万t県下3割を占める。
2. シートマルチ被覆栽培の全園実施と光センサーを使った果実の糖度による選別出荷で、「味っ子」「味まる」のブランドを確立。市場からの評価も高く、全国トップクラスの産地である。

【課題設定の背景】

1. 園地登録園制度によるシートマルチ栽培の徹底で「味っ子」「味まる」ブランド商材を生産しており、近年の異常気象の中においてもブランド率は8割を超えている。
2. 高齢化により部会数が減少する中みかん生産量を維持するために、農地集約と省力化を実現する大規模な基盤整備を検討している。また、雇用労力の確保などの課題も多い。

【活動目標】

1. 「西海みかん」ブランド商材の安定生産
園地登録園制度とシートマルチ栽培管理の徹底により高品質果実の安定生産を図り、ブランド率の高位維持に努める。また、異常気象に対応した技術の検討、スリップスなどの病虫害対策の徹底を図る。
2. 「西海みかん」の産地の継続
産地の維持発展を図るために、計画的な新改植、園内道整備により作業環境の改善の推進と、農地中間管理事業を活用した担い手への農地流動化を進める。宮地区の基盤整備事業は事業実施に向けた活動を支援する。また、雇用労力確保の取組みを推進するとともに、家庭選果の省力化体系技術の確立に向けた検討を行う。

【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

1. JA、佐世保市と連携し、部会役員・支部長・部会内委員会(生産・販売・産地振興)で検討し、活動を展開した。

【活動経過】

1. 「西海みかん」ブランド商材の安定生産
 - (1) ブランド率向上と生産量10,000t確保に向けて園地登録園制度の基づく栽培・販売対策等を支援。特に、今年産は、果皮体質が弱いため温暖化による果皮障害対策として植調剤検討会を開催した。
 - (2) 経営分析は、部会役員、味っ子研究会員から調査した経営収支をもとに経営規模別簡易経営分析表を作成し部会員へ配布した。個別対応は、平均値比較分析を実施し文書により通知した。
 - (3) 問題となっている収穫直前の食害のカタツムリ類、カイガラムシ類および苗木育成時のハモグリガ等に対し、薬剤展示圃を設置して防除試験を実施し、31年産改善技術について見直しを行った。
 - (4) 粘着トラップによるスリップス発生予察を実施した。併せて、カメムシ・サビダニなどの病虫害防除対策のチラシを作成し、選果所やJA支店などに掲示して情報発信を行った。
2. 「西海みかん」の産地の継続
 - (1) 補助事業を活用し新改植、園内道整備、シートマルチ巻上げ装置の導入等について推進を図るとともに、事業計画作成の支援を行った。
 - (2) 宮地区基盤整備は、区画整理園の苗木導入検討、新規基盤整備候補地の検討を実施した。

- (3) 収穫時期作業員確保のため、大学での求人募集、街頭でのチラシ配布、収穫作業説明会を実施した。
- (4) 家庭選果省力化ロボット選果機は、農林技術開発センター、メーカーと連携し、各品種の試運転計画作成支援と稼働試験を実施した。

【普及活動の成果】

1. 「西海みかん」ブランド商材の安定生産
 - (1) シートマルチ被覆率98%によりブランド率86%、高単価（356円/kg（前年比101%））を堅持。ただし、温暖化の影響で小玉果増加と収穫直前の腐敗果増加で、出荷量が約9,000t（前年比約90%）。
 - (2) 植調剤散布の推進を図った結果、障害果発生低減が図られていると部会員の多くの意見を得た。
 - (3) 経営分析の提示により、自らの経営の位置付けや今後の経営判断の把握に役立てることができた。
 - (4) 薬剤散布試験の結果、3剤を来年度の改善技術に反映した。
 - (5) スリップスの発生情報提供と防除適期の情報発信（チラシ掲示）により部会員の評価も高かった。



【病害虫発生情報のチラシ】

2. 「西海みかん」の産地の継続
 - (1) 新改植等9.9haなどの各種補助事業の推進により産地規模の維持および農家規模拡大につながった。
 - (2) 宮地区基盤整備は、大苗約4千本を取りまとめるとともに、新規基盤整備園の機運が高りつつある。
 - (3) 労力支援システムは、無料職業紹介所の新規登録数83名の確保ができ収穫作業等に従事した。
 - (4) 家庭選果省力化ロボット選果機は、早熟早生からさせぼ温州において腐敗果除去や青果選別の一定の選別は可能となり、部会員や選果所選別作業員の評価も高かった。

【対象の声】

1. 部会活動の様々なことに支援してもらい、助かっている。今後も支援をお願いします。（かんきつ部会）
2. 関係機関の協力により宮長地区基盤整備が採択され、苗木導入計画等、順調に進んでいる。（宮長地区）

【今後の課題】

1. 「西海みかん」ブランド商材の安定生産
 - (1) 今後も園地登録園制度の支援によりブランド率の向上と目標生産量の確保を目指し、温暖化による小玉果、腐敗果対策に取り組む。
 - (2) 新規薬剤の導入について次年度も引き続き散布試験により検討し、重要病害虫は、現地に即した発生予測に努め、引き続き部会員にわかりやすい情報発信方法について改善を図る。
2. 「西海みかん」の産地の継続
 - (1) 新改植、園内道等の導入のため補助事業等を活用し、産地継続につながる取組の支援を行う。
 - (2) 宮地区基盤整備園は、大苗等事業の活用検討を行うとともに、新たな基盤整備について検討する。
 - (3) 収穫期の労働力不足を解消のため、無料職業紹介所の支援を進めるとともに、農業サービス事業者の活用を検討する。
 - (3) 家庭選果省力化ロボット選果機は、スマート農業実証事業で選別の精度向上に向け関係機関と進める。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

1. 温暖化に対応した障害果発生、腐敗果等軽減のための生産対策は、果実品質および今後の気象情報等を予測した適期および濃度等の植調剤散布方法の検討が必要である。

【発表・参考資料】